

一般

段級

か
り
に
旅
心
定
り
ぬ。
い
か
ど
都
へ
と、

心
許
なき
目
数
重
る
ま
に、
白
河
の
関
に

田
一
枚
植
て
立
ち
去
る
柳
か
な

【奥の細道】
西行法師ゆかりの遊行柳の下で座り込んで感慨にふけっていると、田植えをしているのが見える。田んぼ一面植えてしまうまでしみじみと眺めて立ち去るのだった。不安で落ち着かない日々を重ねるうちに、白河の関にさしかかかって旅をするんだという心が決まった。(昔、平兼盛が白河の関を越えた感動を)「どうにかして都に(伝えたい)。」と

